

グローバルな製薬企業が集まるニュージャージー州

Vol. 4, No. 71 March 6, 2000

Health and Welfare Department

伊原和人 (Kazuhito Ihara)

天池麻由美 (Mayumi Amaike)

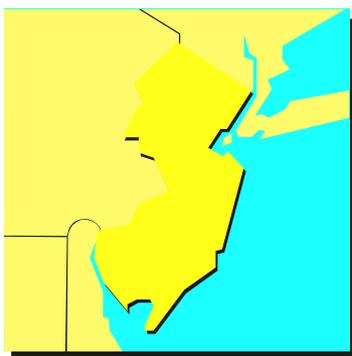
「処方薬にはニュージャージー州がピッタリ (New Jersey Fits the Prescription)」
本年2月6日付けニューヨーク・タイムズ紙は、このような見出しの記事を掲載し、
同州に製薬企業が集中している現状、そしてその背景などについて報じている。

現在、ニュージャージー州には日系の製薬企業はもちろんのこと、欧米の大手製薬企業
の活動拠点が集中している。これらの企業は専ら新薬の研究開発に力を注いでおり、
昨年承認された新薬の40%超がニュージャージー州に拠点を持つ製薬企業によって開
発されたという。

同記事では、製薬企業がニュージャージー州に活動拠点を設立する要因として、既
に多くの製薬企業が存在しており集積効果がある、世界的な国際空港へのアクセスが
良い、ロケーションの割に地価が安いなどが挙げられている。また、製薬企業が集中
していることから研究者や経営者の人材が豊富で、スタッフの確保が容易だと言われる
反面、企業にとっては人材の引き抜き、企業秘密の漏洩等の不安も大きいとの指摘もあ
る。

今回は、ニューヨーク・タイムズ紙の記事を基に、製薬企業がニュージャージー州に
集中する傾向とその経緯についてレポートする。

1 ニュージャージー州とは



「ガーデン・ステート」のニックネームを持つニュージャ
ージー州は米国北東部に位置し、ニューヨーク州とペンシル
ベニア州に隣接し、東岸は大西洋に面している。面積は1万
9,214平方キロメートルで四国とほぼ同じ広さである。同州
の人口はおよそ800万人。州都はTrenton。

2 ニュージャージー州に集中する大手製薬企業 新薬の40%以上が同州から

現在、ニュージャージー州に活動拠点を置く、もしくは、これから同州に移転しよう
と計画している製薬企業は数多い。表は、現時点でニュージャージー州に活動拠点を置

く大手製薬企業のリストであるが、American Home Products、Aventis、Bristol-Myers Squibb、Johnson & Johnson、Merck、Pharmacia & Upjohn、Schering-Plough、また、先日 Pfizer による買収に正式に合意した Warner-Lambert などが本社ないしは医薬品部門の本拠を置いている。これらの企業は、専ら新薬の研究開発に力を注いでおり、昨年 FDA に承認された新薬状況を見ると、その 40% 以上は同州に活動拠点を持つ製薬企業によるものとなっている。

日系製薬企業を見ても、ニュージャージー州に活動拠点を持つ企業の割合は比較的高い。日本製薬工業協会に加盟する企業のうち、米国内に活動拠点を持つ企業（32 社）¹の 37.5% にあたる 12 社がニュージャージー州に活動拠点を有している。

3 製薬企業の集中による経済効果 14 万人の雇用と 100 億ドルを超える経済効果

製薬企業が集中することに伴う経済効果は大きく、会計業務やコンサルティング業務で知られる PricewaterhouseCoopers 社が 1998 年のデータを基に行った分析によれば、ニュージャージー州の製薬産業は直接・間接に 14 万人の雇用を生み²、103 億ドル（約 1 兆 1,330 億円）の経済効果をもたらしているという。14 万人の雇用の内訳を見ると、製薬企業の従業員が約 5 万 7 千人のほか、CRO 等関連産業関係者が約 4 万 4 千人、その他サービス業（従業員が利用する飲食店等）約 3 万 9 千人となっており、企業の集中が関連産業の集積を生み、結果としてその雇用が広がっていることがわかる。

4 ニュージャージー州に集中する要因

昨今、多くの製薬企業がニュージャージー州に活動拠点を設立する要因として、ニューヨーク・タイムズ紙は、既に多くの製薬企業が存在しており集積効果がある、世界的な国際空港へのアクセスが良い、ロケーションの割に地価が安いを挙げている。

既に多くの製薬企業が存在しており集積効果がある

「もし、大きな犬たちと走りたいと思うなら、大きな犬たちのいる所に行かなければね。」 Aventis 社の Gerald P. Belle 会長はこう話す。Aventis 社（本社：フランス）は、Rhone-Poulence 社と Hoechst Marion Roussel 社の合併により 1999 年に誕生したが、経営に関する事実上の本社をニュージャージー州 Parsippany に移転することを決定した。前述の Belle 会長のコメントは、その主な移転理由である。

また、最近合併を発表した他の製薬企業も、ニュージャージー州に経営の本拠をおく動きが見られる。今年半ばまでに Monsanto 社との合併完了を予定している Pharmacia & Upjohn 社の広報担当者は、合併後、Monsanto 社の製薬事業の大部分はニュージャージー州に移されるだろうと話している。また、本年 1 月に正式に合併が合意された Glaxo Wellcome 社と SmithKline Beecham 社は、本社を英国ロンドンに置く一方、経営における事実上の本社はニューヨーク市周辺に新たに設置する予定と発表しており、ニュージャージー州内が有力との見方もある。

¹ 合併会社を除く。

² 業態別に見ると全業種中最大である。

多数の製薬企業が集中することにより、研究者や CRO 等の関連産業が集積し、それがまた新たな企業の進出を呼ぶ。こうした循環が働いているようである。

世界的な国際空港へのアクセスが良い

国際規模で活動を展開する製薬企業にとって、国際空港へのアクセスは重要とされる。ニュージャージー州には、現在 48 社が乗り入れているニューアーク国際空港があり、国内はもとより欧州、日本といった世界各地の玄関口として機能している。同空港から出発する国際直行便の平均飛行時間は、成田まで 14 時間、ロンドンまで 7 時間である。

ロケーションの割に地価が安い

ニュージャージー州は、「ガーデン・ステート」のニックネームからも想像できるように廉価な農地が多くある。現在、同州に拠点を置く製薬企業の多くは、過去にニューヨーク州に拠点を構えており、また、海外に本社がある企業も初の米国オフィスをニューヨーク州で開設することが多い。しかし、こうした企業がビジネスを拡大するにあたり、廉価な土地を求めてニュージャージー州に移転するケースが少なくないという。

また、ニューアーク国際空港から約 1 時間でワシントンに到着できる距離にあるという点も便利である。新薬の承認申請に関するやり取りで頻繁に FDA に足を運ぶことが考えられる製薬企業にとって、移動時間は無視できない要素である。

さらに、日米欧の三大市場の中間に位置していることも重要な要素だと言われる。PricewaterhouseCoopers 社の Joseph Palo 氏は、医薬品市場のシェアが米国 32%、ヨーロッパ 28%、日本 20% というデータを挙げ、「ヨーロッパと日本に位置するニュージャージー州は、グローバル企業にとってちょうどよい場所である」と話している。

5 製薬企業の集中のメリット・デメリット 低コストで人材の発掘・採用が可能。ただし、こうした状況が逆に不安材料にも

製薬企業がニュージャージー州に集中しているため、必然的に研究者も州内に集まっている。特に、新たに同州に移転した企業にとっては、州内にいる研究者や経営陣を採用すれば諸経費（移動費用等）を低く抑えることが可能となる。これは、雇用される側にとっても都合のよいことで、引越による子供の転校などの家庭事情を気にせずに住むことになる。

製薬企業が集中することが利点として受け止められている一方、企業側は不安も感じているようである。優秀な人材が周辺のライバル企業に引き抜かれてしまう可能性が高くなるほか、企業秘密が漏洩するリスクも高くなるという懸念である。いくつかの企業は、自社の研究者が他企業の研究者と接触することを回避するため、大学のキャンパスのような広い土地に研究施設を設立し、研究者のトレーニングから新薬の研究開発事業まで全てを敷地内で行い、研究者が常に敷地内にいるようにしているという。企業の集中は必ずしもよいことばかりではないようである。

(表) ニュージャージー州に活動拠点を置く大手製薬企業

<http://www.jmari.med.or.jp>